

SSIS コミュニティ活動(趣味の会)として新世紀美術協会「新世紀展」の絵画鑑賞を始めて 5 年目を迎えた。第 64 回「新世紀展」(5/12~18)も協会理事・SSIS 会員の田村敏子氏、新世紀会員・SSIS 会員の齋藤照子氏のお二人に新世紀展を案内していただいた。  
本絵画鑑賞は、SSIS コミュニティ活動(趣味の会)の重要な活動の一つとして位置づけてきたが、ますます楽しく鑑賞してきている。

記

日時;令和元年 5 月 13 日(月) 16:00~18:00

場所;東京都美術館(上野公園)

出席者;(順不同、敬称略)

川西 剛、田村敏子、齋藤照子、溝上裕夫、  
真鍋研司、野澤滋為、山崎俊行、日高義朝、  
藤井嘉徳、内山雅博、島 亨・恵子、(12 名)

田村敏子氏の“路(みち)”は八ヶ岳高原の一筋の道をイメージして作品にしたという。

齋藤照子氏の画風の微妙な変化が楽しく、今年の商品も構図、色ともにユニークに思えた。

絵画や彫刻の美しさに目が奪われるが、毎年、さらに多彩になってきているようである。

誠に申訳けないが、この後はボクの勝手な興味で絵を掲げさせていただくのをお許しいただきたい。



—新世紀展入口でのメンバー—



—田村敏子“路(みち)”—



—齋藤照子“nostalgia I & II”—



委員小品

—田村敏子の小品・受賞者とともに—





具象画、抽象画、という見方が中心だったが、最近はその中間が主流になってきているように見えて、画家個人の主張が多様化しているようである。また、色遣いも、赤、青、黄色、黒と原色を大胆に、かつ、合わせ持つ多彩さは見るものの目を奪う見事さであり、美術館全体が華やいで見える。この方面でも女性の台頭が著しく、また、定年後に興味で始めたシニア画家も多いという。



**懇親会**  
**“過門香・上野バンブーガーデン店”**

**出席者;** (順不同、敬称略)

川西 剛、田村敏子、斎藤照子、真鍋研司、野澤滋為、山崎俊行、日高義朝、藤井嘉徳、内山雅博、島 亨・恵子、(11名)



2つの円卓に分かれてビールでの乾杯から懇親会が始まって、四川料理に合わせて川西さんのおごりの白、赤ワインや、紹興酒に合わせて会話が弾む。田村画伯、斎藤画伯の席での会話では、川西さんはウクライナ人の若い女性からロシア語のレッスンを受けているので、ロシア研修旅行で成果を披露したいらしいが、美術館巡りは疲れるからご免だという。

- ・終戦前後の話；ボク達があまり知らない話も、
- ・ミャンマー研修旅行 2018 の話；無事に帰ってこれてよかったね、
- ・宗教の話、一神教のこわさの話；日本は八百万の神々で何事も中庸でね！
- ・絵画・趣味の話

四川料理と会話を楽しんだ懇親会と写真撮影の後、家路へ向かうべく散会した。

新世紀展は来年も5月に開催予定でご案内しますので是非ご覧ください！

(文責 島 亨)

